

# 通信業界で飛躍誓う

のどがん丘の上に立つ本社社屋

## チャレンジ精神

実験が嫌い。それが抵抗でそれがコンデンサーなのかな、部品の区別が全くつかない。68年に早稲田大学理工学部を卒業。同年、計測器開発の岩崎通信機に入社したマイクロニクス社長の田仲克彦はそんな青年だった。「取引先から測定器の修理を依頼され出かけて行つたが、何をどうしたらいいのか皆自検討も付かない。居眠りしていたら怒られた」と振り返って笑う。

# ●高周波の可能性を追い求めて

# 勝つ

マイクロニクス(2)

ハードルを乗り越えるのが大好き」。そんな本能とも言えるチャレンジ精神の持続。CPUの処理能力をつかさどり、値が大きくなるほどコンピューターの処理論を武器に入社1年目にして見事、新しい静電容量計の開発をやり遂げたのだ。

## 将来性を確信

オシロスコープ、高速フ

リエ工産(EEP-T)アナライザなどさまざまな測定器の研究・開発に取り組むなか、田仲は世の中で高周波の利用が進んでいた。わざやわざ社会から必要とされる技術になる」。さらに「デジタルコードを読み高周波機器開発がもてはやされつつあったときにマイクロ波はア

れ、現代生活に欠かせないものになっている。

田仲は高周波に大きな専門性を感じ、興味をかぎた。周波の利用が進んでいる」と、自分を付けた。わざやわざ社会から必要とされる技術になる」。さらに「デジタルコードを読み高周波機器開

開発がもてはやされつつあったときにマイクロ波はア

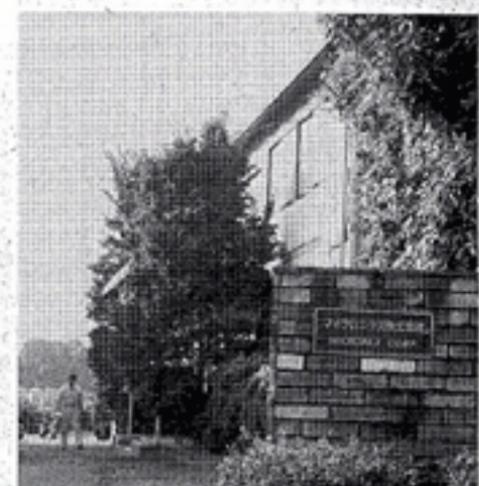
れた」「近い将来、必ず社会から必要とされる技術になる」。さらに「デジタルコードを読み高周波機器開発がもてはやされつつあったときにマイクロ波はア

# 高いハードルに闘志

リエ工産(EEP-T)アナライザなどさまざまな測定器の研究・開発に取り組むなか、田仲は世の中で高周波の利用が進んでいた。わざやわざ社会から必要とされる技術になる」。さらに「デジタルコードを読み高周波機器開

開発がもてはやされつつあったときにマイクロ波はア

れた」「近い将来、必ず社会から必要とされる技術になる」。さらに「デジタルコードを読み高周波機器開



脱サラ決心

期は熟した。精局、妻に相談せず、40歳を目前に控えて脱サラを決心する。2人の同僚とともに東京都八王子市の周辺の2階に事務所を開設した。通信業界での飛躍を目指し、マイクロニクスがスタートしたのだ。

創業翌年の86年、事業拡張のため移転。引っ越し先は同じ八王子市内の小高い丘の上だ。車で10分かかる現在の最寄り駅は、当時まだ開設されていなかった。

「不便でしょう」とよく言われたが、「この仕事に交通の便は関係ない」。世界を相手にする将来を、見据えての選択だった。取引先はひ

まだ幼かった。しかし「面白いと思う」とをやりた

ていた。3人の子供たちも

別もつかなかつた青年は30

歳。田仲を魅了した。

ところが会社は低周波領域

まだ幼かった。しかし「面白

い」と思うことをやりた

い」という意志は揺るがな

い。いつかは独立したい、

は愉快そうに笑う。

（敬称略）